

◆障害学生の修学支援◆

第二回 建物・大規模設備面での対応

筑波技術短期大学助教授 石田久之

今回から三回にわたり、障害学生の修学支援（これからは「修学支援」あるいは単に「支援」と言います。）について、どのようなことが行われているのか、また、いないのかということと、それらに伴う問題点をお話ししたいと思います。

支援の内容は、大きく分けて、建物や大規模な設備面と、学習・生活における障害補償や情報保障、それらを支える人的資源などの面とがあります。この分類は、極めて大まかなもので、話を進めていくうちに、その曖昧さはご理解頂けると思いますが、なお、便宜的に前者をハード面、後者をソフト面と言うこともあります。今回は建物・大規模設備面での「障害学生対応」について様子をお話ししましょう。

よく見られるのは、車椅子用のスロープ、障害者対応エレベーター、視覚障害者用誘導・警告ブロックなどですが、更に、弱者用に教室名や各種案内を拡大表示したり、重度視覚障害者用（盲と重度弱視を重度視覚障害といいます。読み書きには、主に点字を用います。）に点字表示をしたりすることも含まれます。

利用できる環境の（気持ちの持ちようを含めた）整備も必要です。役に立つ情報提供を

エレベーターも、視覚障害者はよく利用しますので、開閉や階数の音声案内や注意などの点字表示はもう一般的ですね。しかし、点字案内板の設置位置は必ずしも一定ではなく、実際にはどこにあるかわからず、利用できないことも少なくありません。どのエレベーターも決まった場所に、注意書きや行き先階ボタンが設置されていれば問題はないのですが。

弱視学生に配慮した教室名（番号）・各種案内板などの拡大表示や重度視覚障害学生用の点字表示も有効です。なお、大きさはかりでなく、文字と背景のコントラストも考える必要があります。これらは、しっかりした作り付けのプレートですと設備の一部ということになるのですが、ワープロで文字を拡大して印刷したり、点字のラベルシールを打ち出したりして貼るのは、どうなのでしょう。この辺が曖昧なところです。ただ、決して簡便な方法を否定するわけではありません。どのような形にせよ有用な情報が有るか無いかは、天と地ほどの違いがあります。可能なやり方であればよいのだと思います。

補聴システム

聴覚障害学生用の補聴システムというのがあります。これは、

移動のスムーズさ

キャンパス内のスムーズな移動のために、車椅子用のスロープの設置が挙げられます。大学だけではなく、様々な建物で見られますが、スペースの関係で、勾配が急すぎたり、曲がり角が急で、曲がるのに難儀をするようではまずいですね。また、複数の建物を同一面（高さ）の廊下で結び、建物間の移動を容易にしている大学もあります。起伏に富んだ場所にキャンパスがある大学に見られます。

車椅子利用学生への配慮としては、この他にも、教室内の場所の確保、廊下などの通路幅確保があります。机や椅子が固定されている場合は、一部を取り外す必要がありますし、廊下が狭い場合は、書棚などを置いて更に狭くしないという配慮が必要です。古い大学では、研究室に入りきらない備品などを廊下にも積みしているのをよく見ますが、危険ですし、通路幅も狭くなってしまいます。前回、「気配り」と書きましたが、この辺のことを言っています。ちょっとだけ他者に気を配れば、お互い気分よく、すく生活しやすくなるのではないのでしょうか。視覚障害者のスムーズで安全な歩行のために、誘導・警告ブロック、いわゆる点字ブロックがあります。しかし、この上に、駐輪しているという光景は、キャンパス内でも街中でも決して珍しくはありません。設置するだけではなく、それを問題なく

話者（講師）の音声を、ループアンテナやFM波を用いて補聴器などで聞きやすくするシステムです。主に教室内に設置し、講義などで利用しますが、今年三月に障害学生支援の調査でシドニーに行った折、列車内に設置されているのを知り、ビックリしました。また、パトライトという警告灯によって、授業の開始・終了、緊急を報知する装置もあります。

これらのシステムには簡便・安価な代替装置はなく、それ相應の経費がかかりますが、学習効果、緊急避難などにはとても有効だと思います。

ハザードマップ

最後に、是非、お考え頂きたいことがあります。それはキャンパス内の「ハザードマップ」の作成です。障害学生の安全確保ということも十二分に考える必要があります。視覚や聴覚入力情報の少なさによって、あるいは、運動能力がひどく低減していることによって、障害学生の危険を回避する能力は非常に低下しています。これを補うために、予めその種の情報を提供しておくことが必要です。キャンパス内の滑りやすかったり、つまずきやすいというような危険な場所、工事中の箇所、車道と歩道の交差する場所などを詳しく調べ、公開するのはどうでしょう。安全についての情報は、障害学生だけに限らず、健常学生、更には、教職員にも役立ちます。